



おーい！くじらぐも

Vol.29 2023年（令和5年）11月号

発行人：(福)健翔会 相談支援センターくじらぐも

所在地：埼玉県行田市小見1141番地1

TEL:048-580-3634 FAX:048-554-8814

MAIL:kujiragumo@kenshokai.net

発行責任者：くじらぐも センター長 細川竜太

福祉サービスを利用するためには「くじらぐも」が作る『サービス等利用計画』が必要です。

「くじらぐも」は障害者総合支援法により、障害者・障害児に対し相談支援事業を提供する健翔会の第4号事業所です。

福祉サービスのことでなく、働くことや趣味・気になっていることなど、何でもご相談ください。



近隣の小学生・中学生・クラブチームのプレイヤーやコーチなど多くの方が集まり、5週に分けて行われました。



先生の指導・説明のもと、主に高校生がマンツーマンで指導します。基礎練習の繰り返しです。



北本市にある障害者雇用をすすめる特例子会社の見学に行ってきました。天候の影響を受けにくい屋内型農園でハーブなどの選定や育成に従事します。詳しくは来月号でご紹介します。

『教えて教わる』

～バスケットボールのファンダメンタル(基礎)指導から～

長男・次男の母校で、バスケットボールの基礎を教わる「ファンダメンタル指導」のお誘いを受け、小学五年の三男が参加しました。中学・高校に行けば、バスケットボールの基礎はできているという前提で指導が始まります。それ故に、徹底的に基礎を教わる時間はなかなかないので、三男には絶好の機会だと思い参加させました。その内容は、足の動きや体の使い方、パスの受け方もらい方、戦況が変わるなかで、どんな「判断」が必要か、ボールを持っていないときの動きで大切なことなど、バスケットボール初心者の私でも、わかりやすく説明をしていました。

そして、このファンダメンタル指導の特徴として、高校生が他プレイヤーに対して指導するということです。参加者は、初心者の小学生やクラブチームでバリバリ活躍する選手まで幅広いので、教える方も工夫しなければなりません。専門用語を使ってもわからないし、当たり前のことを言っても物足りない、いろいろな葛藤もあったかもしれません。「教えることの難しさ」に気付いた高校生も多くいたはずですが、先生の伝えたいことを噛み砕いて伝え指導することで「教えながら教わった」なんてことが、後になってわかるのでしょうか。この経験を通して、「将来の夢＝学校の先生」と形になった高校生もいたかもしれませんね。

私も、大地や現在のくじらぐもで多くの方に出会い、気が付くと巡り巡って自分が教わり勉強になっていると感じることがよくあります。新卒職員からの何気ない一言が、自分への戒めに繋がることもあれば、ご利用者家族との会話の中から、支援のヒントが隠れていたり、ご利用者からの厳しい言葉の裏には、本人がなかなか言えないヘルプのサインがあったり。それには、自分自身が「教わりたい！学びたい！」という意識があるかないかで大きく変わってきます。日々勉強ですね。くじらぐもは、これからも「当たり前のこと」を大切にしてみなさんを応援していきます。

<11月のトピックス>

平日の早朝に、くじらぐものご利用者から電話がかかってきました。その方は、あるスポーツ競技に取り組んでいて、その実力は全国レベルです。内容は、大会が近くなり、練習をしても思うように力が発揮できず悩んで焦っているとのこと。私は、その競技には詳しくありませんが、今までの自分の経験と重ね合わせ、こうアドバイスしました。「練習は嘘をつかないので、今までやってきたことに自信を持ってください。」

私も大地で働いているときに職員によく言うてきました。「ご利用者と一緒に過ごした時間は嘘をつかない。一緒にいた時間は大きな価値ですよ。」と。私のくじらぐもとしての業務は、直接処遇の業務ではありませんが、この思いを大切に、また忘れないようにしています。